

GAP部門

農産局長賞

取組の紹介

南郷トマト生産組合

所在地	福島県南会津郡南会津町宮床宇川久保22-1
認証	JGAP
応募区分	団体の部
面積	30.1ha
構成員	102戸
栽培品目	トマト

GAPに取り組んだきっかけ

- トマトの生産から出荷までのルールを統一し、産地全体で生産工程を管理する体制を構築するとともに、100年続く産地を目指すために産地生産基盤の強化を図ることを目的に、令和元年からJGAP団体認証への取組を開始。
- 令和元年に31農場が認証を取得して以降、段階的に認証農場数を増やし、令和6年8月に組合員全戸での認証取得を達成。

生産工程管理の改善に向けた取組

- 生産者を65歳以下、新規就農者及びその他の3つに分け、生産組合役員と併せて65歳以下の生産者に対し、先行して認証取得を推進。先行して取り組んだ生産者は、新たに認証取得を目指す生産者に対して助言を行うとともに労働環境整備について支援。
- 化学農薬による土壌消毒に頼らない土壌病害の対策として、抵抗性台木の使用や転炉スラグによる対策を実施した結果、土壌病害の1つである青枯病の発生が減少。
- 労働安全に関するリスク評価は年1回各農場で実施。リスク評価の中で他の生産者にも共通すると思われるリスクがあった場合には、内部監査や研修会等において他の生産者にも共有することで、効率的に生産組合全体でリスクに対する意識改善を図る。



新規取得者を対象とした研修会の様子



野鳥の侵入対策を施した南郷トマト選果場

生産効率性の向上に向けた取組とその効果

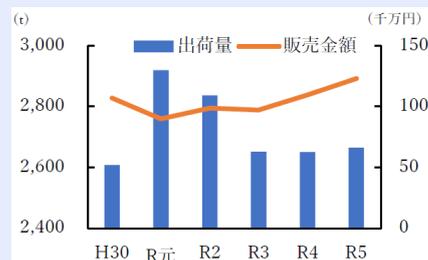
- 効果的な利用による化学農薬の使用回数削減を図り、生産者の約40%で農薬費が削減。

経営の改善に向けた取組とその効果

- 団体の方針・目的を定めたことで、生産組合の目指すシーズンを通じた安定出荷の重要性が全生産者に周知されている。それにより生産者の意識が向上し、栽培技術に係る新たな講習会の開催や、新品種の導入が進んだ結果、猛暑による厳しい生産環境が続くここ数年の間でも安定した高単収を維持。
- JGAP団体認証を取得したことにより、経営内容の見える化が進み、就農後も安定した出荷が見込め、経営の早期安定が可能であることを就農希望者に対してアピールすることが可能に。新規就農者の確保に役立っている。

波及効果

- GAPの認知度向上を目的に福島県が開催した「ふくしま。GAPフェア」において、GAP認証農産物として南郷トマトを提供。



出荷量と販売額の推移



南郷トマトを使用した料理
(ふくしま。GAPフェア)